京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年紀元二千五百七十年
本紙一枚金二錢▲一ヶ月前金卅錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料 五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
京城西署西小門通（電話七六六三）
發行所 京城新報社

雜報

併合後の淸國人

併合後淸國人の在留數は漸次減退し行くの傾向あり今其原因の主なるものとして某當局者の語る處によれば彼の淸韓條約は既に消滅し在留同國人の位置は日淸條約及吾が法權によりて支配せられざるべからず隨つて土地其他不動產の所有に就ては既得權を例外として將來權に謂りては絕對に之を獲得し能はざる事となれり其結果現在所有に係るものを處分せんとするも同國人間の取引不可能なる爲め勢ひ其立脚地を困難ならしめ且つ一方商況は倍々不振を極めつゝあるより斯かる現象を示めせるものならんと

淸國現在の狀態

（淸國通の某將軍談）

▲淸國の陸軍 は逐年擴張して聽ては三十六個師團となるべきも現在に於ては約十一個師團の編成を了りたるに過ぎず元來同國陸軍の擴張計畫は既に其の豫定期間を經過したるも財政の困難に阻害せられ遲々として進捗せず武器に於ては大砲の砲彈の如き全然外國品の輸入に依るも小銃に至りては近來我國の三十年式に匹儔すべき稍々精銳なるものを鑄造するに至りたれば漸次既設の各師團に採用すべく小銃彈は殆んど內地品を使用しつゝあり又近年陸軍武官の養成に腐心しつゝありて本邦の幼年學校及び中央幼年の肩比すべき二三の學校已に完成して目下士官學校設立計畫中なれば將來武官の養成を外國に委託するの傾向は大に減少するに至るべし

▲駐屯の各國兵 北京及天津に駐在せる各國兵は英佛の四百名に次で伊太利の百五十名日本の百三十名其他米國の百名獨墺の各五十名和蘭、白耳義、露西亞の十名等なり之等駐屯兵は伊太利の陸戰隊を除く外悉く步兵にして何れも小口徑の山砲を設置し不測の變亂に備へ平素之が使用法を訓練しつゝあり

▲資政院 の權限及び其の制度は恰も日本が從前の元老院を開設するに方り其の準備會議として各藩より徵士を召集し集議院たるものを設けたると同じく全然立法府にあらずして政府の諮問機關たるに過ぎず然れば資政院側にて其の權限を擴大して立法府たらしめん希望を有せるが同院は將來國會の開設と共に直に移して貴族院たらしむべきものなるべし

▲經濟界 の問題としては新貨鑄造、個人振出手形の漸禁、食鹽の專賣、阿片の禁止等枚擧に遑あらず之等は一として財界に影響せざるはなし從來銀行會社に對して適當なる制裁を加ふべき一の法律なく從つて個人としても各自隨意に振出手形に類する長方形の紙幣を發行し僅に自己の信用のみにより金融の方法を講じ居たるが一昨年右に關する法律發布され宣統三年即ち明年末を以て全然之を禁止したれば其の影響延いては各省に及ぼすべし例へば通般上海に於ける財界の恐慌亦其の餘波を受けたるなり云々

朝鮮山野の荒廢度（上）

（齋藤山林課長の談）

朝鮮山野の荒廢は何人も驚く處である今春以來の調査に依れば全山野一千五百餘万町步の內約三分の二以上が全く裸になつて居つて殘つて居るのは鴨綠江と豆滿江の兩流域であるから他地方に於ける荒廢度の如何に激甚なるかは以て推知し得るであらう今八割以上の荒廢山野を有する地方を擧ぐれば

	荒廢山野步合
全羅南道	同上 九割一分
黃海道	同上 八割九分
慶尙北道	同上 八割七分
慶尙南道	同上 八割四分
忠淸北道	同上 同
京畿道	同上 八割三分
忠淸南道	同上 八割

こんな荒廢步合の大なる地方は世界を通じて稀であらうと思ふ

▲然るに朝鮮山野の荒廢は今日の儘で甘是れを治める處が年に月に益々其荒廢度を加ふるのである之れを控び目に概算するも每年約十七萬餘町步といふ大面積の森林を裸かにし荒らして往くことになつて居る是れが若し事實であつたとしたならば實に由々しい大事である今でさへ溫突の燃料に苦み水旱に惱みつゝある朝鮮にして今後益々荒涼慘膽の激甚を加ふるとせば前途の困窮以て想ふ可きではあるまいか

▲朝鮮山野每年の荒廢度約十九万餘町步といふのは決して誇大では無い寧ろ控へ目の計算である然らば其算出の基礎は何うであるかと謂ふに第一には朝鮮に於ける每年木材の消費量を概算せねばならぬ、但し木材の消費量と云ふのは普通用材、薪炭材、鐵道枕木、橋梁材等の總てを含むは勿論又火田、山火等の爲めに空しく燒棄さるゝ樹木をも含ませるのである

▲木材消費量の計算は先づ一人平均の消費量を定め之れに人口を乘じて出すのが普通である而して本州、四國、九州に於ける一人平均の木材消費量は燒畑山火等の燒棄木を算外として約五尺締（約四百目）であつて燃料を多用する北海道では一人平均約十尺締以上を消費するのが例である

▲朝鮮は用材の消費量は少いが燃料の消費額は本州四國九州の平均よりも大なることと勿論である加ふるに火田及び山火の爲めに燒棄さるゝ樹木も巨額であるから之れを加へた總消費量は少くとも本州四國九州の平均量たる五尺締と見て大誤無からう然るに朝鮮では雜草や芦などを焚くもの少くないから今之れを多く見て總消費量の二割即ち一尺締として差引き殘四尺締を以て控へ目に見たる眞の木材消費量とするのである

▲次に朝鮮在住の人口であるが其精數は不明なるも內地人及諸外國人を併すれば少くとも約一千二百万人はあるだらう今之れに一人平均の木材消費量たる四尺締を乘ずるときは四千八百萬尺締といふ數を得る之即ち朝鮮に於ける一箇年の木材消費總量である（未完）

我が密漁船捕る

（明石警務總長の訓示）

本月初旬內地人及朝鮮人の乘組める漁船數隻露領ポセット灣附近に入込み漁業中露國巡視船の爲めに發見され密漁の嫌疑を以て其內二十餘名逮捕せられたり而して近來吾が漁船の同灣方面に出沒し漁業を營めるは蔽ふ可からざる事實にして之が爲めに國際關係上動もすれば煩累を惹起すべきのみならず殊に親善なる露國に對し斯の如きは遺憾とする處なれば明石警務總長は廿二日沿岸各道警務部長及警察署に對し斯かる不心得者を生ぜざる樣嚴重に取締るべく訓令せりと

京城局の事業統計（三）

郵便爲替

年度	振出 口數	振出 金額	拂渡 口數	拂渡 金額
廿四年度	五〇三	六、一一六、九二〇	三四	五八、三三四
廿五年度	一、二〇三	一五、八〇四、三五九	七六	六〇六、二五二
廿六年度	一、六〇五	二二、〇八〇、六四五	一三〇	一、九六五、四二〇
廿七年度	一、三二八	二九、二八二、八四七	四九九	六、三二五、四二五
廿八年度	八、三二八	一二四、九〇三、二二八	八〇二	二、四五〇、六六〇
廿九年度	九、〇四五	八四、〇七七、四六一	一、〇〇〇	一五、九六六、〇三六
三十年度	六、五三三	七六、三二八、四六六	一、一八八	一六、九六三、六〇四
卅一年度	六、〇三七	八〇、九二五、三三六	一、三三二	九〇、四八七、六二五
卅二年度	七、二七一	一三六、〇三三、一六一	一、三三五	一九、一五七、八二八
卅四年度	一〇、八〇八	一七一、八〇五、九六八	一、五二四	四四、五二五、六四四
卅五年度	一〇、九六四	一八九、〇六〇、一六七	二、六九八	七五、七七〇、三九六
卅六年度	一三、二〇五	二一八、二九二、五六〇	四、一八五	一三七、六一八、四五一
卅七年度	一四、六〇七	二〇三、七二四、〇二〇	四、〇九四	三三、五四四、〇〇〇
卅八年度	三一、四六七	六〇三、五四八、七八〇	八、七四七	三五〇、七三三、二九七
卅九年度	三四、〇三七	八六八、四四四、八四九	三、五二六	六三三、四七二、八三八
四十年度	四九、二二一	一、四三二、七六八、五四六	二五、三二七	五七三、六九二、九六六
四十一年度	三八、三〇一	二、六三四、九五三、二九三	三六、九六一	九九四、三九三、四五六
四十二年度	四五、七九七	三、〇九三、一六六、四一〇	四八、九一八	九七〇、七四四、五二〇

一、備考 郵便爲替は振出數が二十七八年日淸戰役の際激增したる外大なる變動なく漸次增加せり

一、四十二年度の計數を十年前即ち三十二年度に對比するに振出口數六倍三割弱同金額二十四倍五割四分強拂渡口數四十倍四割八分強同金額五十倍六割七分強の增加となる

俳句

◎漢陽吟社第十回發句集

花笠園雪宗匠撰

念佛に夜を更したる十夜哉　都天女
ものいはで暮す日も在秋の雨　半韓
鹿鳴や月は端山に入らむとす　如春
一年を夢の間に經てきくの花　朝松
秋雨や松葉くふらす下男　如眠
川魚の日に〳〵多し秋の雨　梧逵
人なれて鳴聲やさし奈良の鹿　思岳
すり火して煙草吸けり鹿の留　其月
秋雨や砂のよくるゝ濱の路　西都
秋雨や襟元寒き夕暮　梅窓
鷓鴣や柿か燈ちら〳〵見ゆ　香水
月代やすつくと立し峯のしか　梅溪

講談 大岡政談 越後傳吉

第百五回　桃室南陵講

柳「庄兵衞さん、大變なことが出來たんだよ、お前さんの行た後で妾が湯へ行つたら、その間に泥棒が入つて十六兩三分悉皆奪られちやつた　庄「ハーン、そりやアねらいことになりましたナ、何うしてマアそんなことになつたんで……　源「マア庄兵衞さん聽てくんな、お前さんなんかは每日金子を集めに廻つてるんだから金子の貴いことを知つてるだらうが、自宅の女房と來たら亭主から小遣錢貰つて飯を喰つて居るだけで、金子の貴いことを知らねえ、マア十六兩三分といやアどんなに駈廻らなくちやアならんか知れやアしねえ、呆れて物がいへない、こんな女を女房に持てゐちやア乃公のうだつが上らねえ……　柳「お前さん、そんなにいはなくッても宜いぢやアないか庄兵衞さんのゐる前で……うりやア妾が惡かつたから謝つてるんぢやアないかね　源「何をグッ〳〵亭主に口を返しやアがる　柳「さうぢやアないか、妾だつてお前さんのために散々苦勞をしてゐるお前さんが道樂をしてゐたときにやア妾の衣服を……　源「餘計な口を利くなッ」突如前にかゝつてあつた燗德利を放り附けた、女房もこゝへ來るとなか〳〵負けません　柳「サアもつと打ッとくれ、殺すんなら殺せ、何だ元十六兩位ゐの金子、惡いから惡いッて謝つてるぢやアないか汝だつて妾に散々苦勞をさして……　源「何を吐かしやアがるこの阿魔ッちよ……」といひながら女房の髷をポカーリ、夫婦は遂に大立廻りを始めた、見てゐる庄兵衞は驚いて　庄「マアお內儀さん、貴女もさういふことをいふものぢやアございません、お內儀さん、旦那……　柳「庄兵衞さん打棄つといてくれ……」夫婦は立廻りをするから、興中に入つて庄兵衞は仲裁をしやうとする、熊のために突飛ばされてはまた起きて仲裁をする、暫くの間揉合ふてゐるうちに、さういふものぢやアございません、何うかうぞこれで御氣分を直して……何うか旦那さんもお腹立ちませうが、何うか御勘辨なすつて　源「マア庄兵衞さん、飛んだ御厄介になりました、併し僅かの金子と違つて屆ける所へは屆けなくちやアなりますまい、また泥棒が捕げられたときに幾らか戾るから……併しこいつア庄兵衞さんの前だが餘ッぱど家の勝手を知つてゐる者だね……」いひながら庄兵衞の顏をジロリ　庄「へーエ、何うも私もさう考へます　源「八卦をトつてもらつて來やう、何しろ十兩からの金子だ、十兩の金子を奪りやア其奴の首が飛ぶといふ位ゐだから、もうこの金子は出ないか、出るか……」　庄「ハアさうでございます、それが宜しうございませう　源「ちやア一寸行つて來よう」勝山の熊仕度をしてそのまゝ戶外に飛び出してチャラ〳〵チャラ〳〵丁度辻の自身番の所へ來て、前後に眼を配つた熊、袂から引張り出したのは最前庄兵衞が喧嘩の仲裁のときに彼の袂から落した證文、自身番の行燈に照して見ると、擬ふ方ない最前受取つて金子を包んで置た證文、莞爾笑つた熊は　熊「ヘッへゝゝ、田舍漢の割合に少し役に立つと思へば直ぐにてんな生意氣な了簡を出しやアがる、普通の家で仕事をしたんぢやアない、勝山の熊さんの家で十兩からの仕事をしたんだそれつ切り濟むと思つてやアがるのか知ら、間拔奴ッ……何うも彼奴は越後ッ兒の割に少し氣が敏つて居ると思つたら何をしやアがるだらう、大概彼奴だらうと思つて大立廻りをして見せたが、證文が乃公の手に入るといふのは何よりのことだ、コーッと何ういふ風にしてやらうか知ら……」向ふから手先が一人、御用と書いた提灯に燈を照し、羽織に紺足袋雪駄履き、長い刀を打ち込んでチャラ〳〵、チャラ〳〵此方の方にやつて來るのを偶爾見ると八丁堀の馬子目宗十郎といふお役人

東京電報

▲天長節の御祝賀 來月三日天長節當日には天皇陛下正午豊明殿に出御内外の臣僚を召させられ御宴を催さるゝに付宮内式部職に於ては各皇族殿下を初め大勳位親勳任官有爵者千四百餘名に對し夫々御招待狀を發せられたり尚ほ來京の朝鮮貴族も招待せらるゝ由（廿四日）

▲載洵殿下の入京 清國海軍籌辦大臣載洵殿下一行は豫定の如く二十三日午前九時二十分横濱御上陸同十一時三十分横濱發臨時列車にて正午新橋着各大臣各國大公使其他の出迎頗る盛に殿下には兼て宮内省より差廻せる御馬車にて御旅館と定められたる芝離宮に入せられたり

▲載洵殿下に贈勳 本日載洵殿下には勳一等旭日桐花大綬章を蔭鎭へは勳一等旭日大綬章を以下隨員等へも夫々勳章を贈與されたり

▲東亞興業の借款 東亞興業會社は清國借款に關し屢々米獨側の爲めに機先を制せられたるが今回は躍起運動の結果炭礦水電工事に對し約百万兩の引受内約成立の模樣なりと（同上）

▲電氣法案の爭點 目下修正調査中なる電氣事業法案は多くの點に於ては衆議院の要求に歩したるも料金及び供給條項に關しては前期議會以來の主張を曲げず當事者及び政友會は官廳か民間事業に不當干渉を加ふべきものにあらずとなし來期議會の爭點たるべしと豫期せらる（同上）

▲農商務省の豫算 同省來年度豫算は大藏省に於て製鐵所擴張及び蠶種統一設施費を除くの外新事業費は總て削除せられしが羽二重檢査補助費農具改良費等は復活されたり製鐵所費蠶種統一施設費は要求額に大削減せられたるを以て結局新事業費としては百七八十万圓に過ぎず本年度の豫算に比するも格別の增減なく日本大博覽會の工事費等は未定なりと（同上）

▲治水問題の成行 政府は臨時治水調査委員會に於て根本的の治水方針を決定する筈なるが本年の水害は豫想以上の慘狀にて復舊費は非常に多額にして地方は勿論國庫の負擔も容易ならざるより政府は來年度施設には調査會の調査を待ち之れを四十五年度に讓らんとする色あり尤も根本的改善を要する河川には此際相當の工事費を投ずるに止め他は來々年度に延期すべしと（同上）

▲評定官の新任命 農商務省參事官肥田中次郎氏理事川崎紫山氏は行政裁判所評定官に任命せられたり

▲宮中顧問官任命 今回船越男樞密院顧問官に親任せられたるに付き補缺として式部官兼皇后宮主事山內勝明氏宮中顧問官に新任せらる

▲本邦の種馬總數 馬政局最近の調査に依れば本邦の種雄馬總數は九千四百六十頭にして內和種百九十八頭雜種二千九百五十四頭洋種五千三百八頭なりと（同上）

倫敦電報

▲葡國新政府の内訌 葡國新政府に内訌起り一般の注目を惹けり（廿四日）

地方電報

▲貴族夫人の一行 貴族夫人觀光團の一行は昨夕當地に着し府尹始め官民多數の出迎盛んなりしが今朝十時五十分連絡船にて下關に向へり一行の元氣は頗る旺盛なるを見受けたり（廿四日釜山發）

編輯

銀價暴騰と朝鮮
輸入金巾と爲替

倫敦の銀塊相場は、去七月下旬、二十五片八分五に上り四十一年以來の高値を示したが、其後一度二十四片臺に下たるも又々本月八日には二十五片臺に盛返へし、十一日には二十五片六分三、十二日には六分五と直押しに押上げて十八日には二十六片、二十日には二十六片四分一といふ未曾有の珍値を唱ふるに至つた、即ち珍値は珍値ながら其の騰貴の足取りは極めて堅實にして投機者の思惑とは思はれぬ、夫れも道理今回の銀價の暴騰には次の如き原因が有のである。第一は、滿州本年の大豆作は非常の豊作である、從て多額の資金即ち銀貨の需用が起ることを見越されて居る、第二は、印度の雨季が極めて適順に終つた爲め棉花の收穫は例年に比して著しく殖ゑた、之れも銀貨の需用增加すべき一因である、第三は、英國の金利安きを奇貨とし、銀貨の需用速增すべきを見越して投機者は多額の銀塊を買入れた否獨り投機者のみならず印度の正金銀行が四千萬圓の銀貨を買入れたとの噂さもある、之れは決して其のまゝ聞捨てにさるべき事件で無い、第四は、上海に於ける南洋護謨の騰貴に因て起れる恐慌救濟の爲めに總督及道臺が銀行家に資金を供給した、此の外幣制の改革等直接間接に諸種の原因が有つたのである。

サテ相場の變動は宜しい、尚は將に活動期に入らんとする滿州經濟界に及ぼすべき影響の如きは余輩玆に論議する遑無しだ、然るに余輩は唯一つ朝鮮に於ける商業家に向つて建議したき事項を有する、幷は一般朝鮮人が常用の衣服に用ゆる金巾の供給が極めて不利益なる狀態に於て爲されつゝあるに由り其を芟除せんと欲するのである、統計の示す處に依れば、年々マンチエスターより輸入する金巾は、三百萬圓內外である、而して此の金巾は上海なる商人の手を經て輸入せられるのである、去れば金貨國の製品が一度銀貨國に入りて銀貨にて取引され、二度金貨國たる朝鮮に輸入されて金貨に換算して取引せられる、例へば一反十志の金巾を朝鮮に輸入したりとせよ、倫敦相場が一兩二志六片替へと假定せば金巾一反は四兩に相當する、若し銀の値上て一兩二志九片とならんか、金巾は三兩六匁四分に下がる、而して此の時に仕入れたる金巾は再び銀塊下落一反四兩の値段となるとも之を朝鮮に輸入せば其騰貴したる當時の銀價に相當せる金貨と交換せらるべきである、然かも道は有り得べからさることで、消費者は爲替に關して二回の危險を受けつゝ何等の利益に霑ふことは無いのである、製造元に於ては原料の價格と製造費とに何等の變動無きに拘はらず、朝鮮なる需用者は其需用の衣服の價値に高低を生ずる、而かも其の高低に依て何等の益する處も無いのである、余輩は之れを目して不利益なる狀態と云ふ、故に余輩は在朝鮮の商業家が直接マンチエスターより金巾を輸入し、銀相場の變動に因て生ずる危險を需用者に分負せしめざらんことを希望する、尤も現在と雖ども少數の直輸入を爲すものも有る、然れども余輩は朝鮮に於ける需用の總てを斯くせでは滿足し能はぬ。

貴族觀光團の發程
（廿三日廿四日の兩日）

朝鮮貴族觀光團は豫定の如く廿三四兩日を以て發程せり其光景は左の如し▲二十三日は婦人部二十四名發程する事とて定刻午前九時前南大門驛に集合し旋て一行は驛長の案内にて貸切一等室に乘込みしが婦人中日本服を着けたるも一二名見受け男子は先達の趙重應氏外に渡邊警視夫妻同行せり停車場には李完用、李容植及び國分人事局長其他多數の見送りありたり▲二十四日午前九時南大門驛發列車にて男子部二十名餘發程せり一行は何れも洋服の裝ひなりしが往年暴徒の首魁閔宗植及び金演等のみは韓服の扮裝にて勇ましく發車せしが停車場には總督府各部長官、李完用、閔丙奭を始め其他貴族の見送りありたり

●司法官會議列席者 本年度東京に於て開催すべき司法官會議は愈々來る三十日より約二十日間司法省に於て開催の筈なるが朝鮮總督府より列席すべき司法官十二名なるが今其の氏名を示せば左の如し

司法部長官	倉富勇三郎
京城控訴院長	城 數馬
平壤控訴院長	永島 巖
大邱控訴院長	上井庸太郎
平壤控訴院檢事長	向井 巖
大邱控訴院檢事長	黑川 穰
釜山地方裁判所長	鳥山虎也太
咸興地方裁判所長	岩本以明
釜山地方裁判所檢事正	吉田雄六郎
光州地方裁判所檢事正	關口 半
公州地方裁判所檢事正	岩田孝慈

以上十九日附を以て上京を命せらる

●仁川署の消防演習 仁川警察署にては廿三日午前八時消防夫八十餘名を召集し本町三丁目海岸埋立地に於て山賀巡査の指揮の下に常設消防夫の練習に次て一般消防夫へ消火に關する説明ありて後水道防火栓、蒸滊ポンプ、手押ポンプの比較演習あり總つて万石町新開地にて水道消火栓の演習あり夫れより魚市場にて消防組よりの茶菓の饗應あり散會せしは午後三時なりき因に成績は頗る良好なりし

●軍司令官演習視察 大久保軍司令官は第二師團幹部演習實視の爲め二十五日午前九時二十分龍山發列車にて開城へ向け出發し同日一泊二十六日歸軍の豫定なりと

●京城憲兵隊の開廳 既報の如く二十三日水原憲兵隊は元內部警官練習所跡へ移轉し二十四日より開廳したり尚同日正午同隊に於ては部員一同を召集し午餐の宴を開けり

●仁川會議所の總會 仁川日本人商業會議所にては廿六日午後七時民團樓上に於て臨時總會を開き會頭の選擧及聯合會出席議員を撰定す

●第二師團幹部演習 第二師團幹部演習は二十日平壤を發し黃州を經て二十四日開城に出で五六日間同附近に於て實施の豫定なりと

●觀光團へ御下賜金 李王、李太王兩殿下は貴族觀光團の擧を嘉みし前日金五千圓御下賜ありたり

●京城民團繼續民會 京城民團の繼續民會は荏苒延引し居りしが愈々二十五日開會の豫定なりと

社告

日鮮人合同 奉祝天長節 提灯大行列

右本社主催擧行致す可く詳細は明日の紙上に發表可仕候

●下關の朝鮮視察團 下關商業會議所の主催にて朝鮮各地の實地視察團組織中なりしが希望者豫想以上に達したるを以て愈々十一月五日頃同地出發釜山大邱仁川等の外沿道主要の地を視察の上來京すべき旨當地商業會議所に通報ありたりと

●新入營者ご講演會 二十三日午後八時より既報の如く京城日本商業會議所に於て徵兵檢査に合格したる者に對し京城守備隊附池田中尉の入營前の心得入營當時の心得入營後の心得等に付講演ありたり聽講者三十餘名にして午後十時散會したり

●騎兵聯隊發火演習 騎兵第二聯隊に於ては廿四日より發火演習を施行せり日程左の如し△二十四日平壤街道弘濟院附近△二十五日臥牛山附近△二十六日漢江坊元山街道五美仙里附近

朝鮮町夜間の開店に就て
共益社取締役 西原龜三君談

朝鮮町夜間の開店も確かに革新の初一歩に相違ない、私も岡崎氏の御意見に贊成する、併し玆に一つの困難な事がある、夫れは一般朝鮮人の生活狀態が低い爲めに、商賈が營業上の收利は極めて低率だ、低率の收利に滿足しなければ成らぬことになつてゐるやうだ、無論商賈も夫れで濟む程の生活を營んで居るからだ、現在に於ても朝鮮町に夜間開店せるものもあるが、彼等は價格の關係からライジング、サンの石油を使つてゐる、松箱を使ふ程度には未だ達してゐぬ、だから夜間開店は結構だが之れは商賈に取りては利か不利か判らぬ、私は常に恁ういふ考を持てゐる、夫れは近く朝鮮人に市税などを課せらるゝに至らば、而して若し表通りには三、五圓の市税を賦課することにもならば或は裏店に引こむものも少く無からうと、甚だ獨斷的の申分かは知らぬが此の考へは大過なからうと思ふ、何しろ前にも云ふ如く朝鮮商人特に雜貨商などは實に薄利なもので、例へばマツチ一箱二百四十個入三圓八十錢のものを小賣りにして僅かに十八錢の利益により廻はらぬ、恁ういふ風では夜間に開店しても燈火の費に追はれはしまいか、利か不利か判らぬといふのは即ち此の理由からだ、去ればとて露西亞油の油煙浮山のヤツを使つたのでは客足を引く程に店を明るくすることは出來まい、此處に至つて私は岡崎氏の大奮發を願はしい、先づ瓦斯ならば引込み電燈ならば取附けを無料にする、點燈料を格安にする、恁うなれば朝鮮人もライジング、サンを使ふことを廢して瓦斯電燈をともす、店が明るくなる、客足を引く、收支償ふことが出來るといふことになる、私の云ふ困難は要するに日韓瓦斯電氣會社の力に依て除き得らるゝので、此の困難が除かるれば誠に結構な貴社の此の思ひつきが都合好く運ぶであらうと信ずる。

新鐵道敷設計劃

馬山を基點として某地方に達する地方鐵道敷設の計畫は目下淺田正文氏の一派及び右近某の一派に依つて兩樣に進行されつゝあり

又々大觀光團渡來

西部鐵道管理局主催朝鮮觀光團二百名は來月四日神戸出發の豫定なりと

●九月中の經濟要項 九月初旬より天候適順にして米及大豆作の豫想良好を告げ地方向き雜貨の賣行續々あり又期米相場の騰貴に伴ひて米大麥小麥の荷動き少なからず商況は前月に比すれば著しく落付きたると未だ大口の資金需要起らず各銀行を通じて手許極めて潤澤なり九月末に於ける韓國銀行の銀行券發行高は千六百三十万圓に上り前月末に比すれば約二百萬圓を增加せるが之れ主として國庫の關係に依るものにして委任地方の各銀行を一括すれば預金貸出共に減少せり（度支部司税局報告）

●蔚山近海捕鯨成績 蔚山近海に於ける捕鯨事業は本月一日より愈々活動を開始したるが本年は當初より天候不良勝と鯨の出沒盛んなるに依りて捕鯨成績至つて不良にして今昨年十二月二十日迄と本年同日迄を比較するに昨年は五隻の捕鯨船にて捕獲數二十九頭本年は七隻にて僅かに十頭を獲たるのみにて殊に內一頭は捕獲後長時間を要したるに依り鯨肉腐敗して食用に堪へざる迄に至りたる程にて兎に角今後に於てはいざ知らず目下の有樣にて成績餘り良好ならず昨年に比して頗る不振の模樣なりと云ふ

總督と行政報告

始め寺內總督が歸東するに際し朝鮮政治の施行上不便多かる可きにより全べてを電文にて聽取することゝなり居り要事件に限り精細なる説明を附して報告する旨申越せしといふ

●鎭海灣軍港地近況 鎭海灣軍港となるべき縣洞の近況に就き同地より歸來したるもの談を聞くに [illegible] 市街地の貸下請願は目下日々三百件以上にして既に其請願のみにてすら需要を充たす能はざる程なるを以て止むを得ざる分の外は當分請願を受理せざることゝなし居れりといふ而して此の土地貸下げを目的とし其他軍港に於ける將來の變遷を當て込みて渡來するもの非常に多く馬山縣洞間の小蒸滊船に便乘し往復するもの日々四回以上なる [illegible] 之等多數の希望を十分ならしむる程同地が發達するかは幾分疑問なりといふ

▲仁川米豆取引所▼

▲前場（廿四日）十一月二節八圓六十四錢六十八錢七十錢六十九錢八錢九錢七十錢六十九錢六錢八錢七錢▲二節六十七錢八錢七錢六錢五錢四錢六錢七錢六錢五錢六錢▲三節六十四錢三錢二錢一錢二錢三錢四錢五錢六錢五錢▲出來高六千六百五十石

▲後場（同上）［十一月］二節六錢八錢七十錢一錢六十九錢▲三節七十錢一錢二錢三錢四錢三錢二錢七十錢一錢▲三節七十二錢三錢二錢三錢一錢三錢二錢一錢二錢三錢▲出來高五千七百五十石

▲大阪期米電報▼

▲前場（廿四日）十月限十四圓五十五錢止五十錢▲十一月限十七錢止六錢▲十二月限九十一錢止九十四錢

▲後場（同上）十月限十四圓五十六錢止六十五錢▲十一月限七十八錢止八十錢▲十二月限七十三錢止九十四錢

公人私人

▲新居消一（大阪商船會社仁川支店長）二十三日入京巴城館に投宿す
▲三浦快哉（憲兵中尉）同上山本旅館投
▲小林豐太郎（辨護士）廿三日平壤行
▲本田幸介（水原模範場長）同日歸任
▲長谷川義雄（鎭南浦新報社長）同歸任
▲永積純次郎（海軍技師）同日浦尾投

▲京城手形交換高▼

十月	金高	枚數
廿四日	九六、五二六、九三	三四六

▲仁川港の出入船舶▼

▲露朝丸 廿五日大坂より入港

▲京龍兩驛の貨客▼

▲南大門驛乘降客 廿三日の分如左
乘車客 九四四 下車客 八五〇
乘車賃金 二一七八、七六

▲南大門荷物扱高 廿三日の分如左
發送 六五噸 到着 二六〇噸
發送貨金 三八八、九八

▲龍山驛の乘降客 廿三日の分如左
乘車客 二八八 下車客 二七八
乘車賃金 三五六、七七

▲龍山驛荷物扱高 廿三日の分如左
發送 九噸 到着 二五噸
發送貨金 七五、九四

●岩佐理事の歸任 東上中なりし東拓同理事は二十六七日頃歸任の筈

●三島理事の歸京 東上中なりし同韓銀理事は二十二日夜歸京したり

●大城戸氏の快方 目下東京赤十字病院に於て療養中の大城戸總督府秘書官は一時危篤を傳へられしが其後主治醫の手篤き診療により近來非常に快方に赴き最早生命に異狀なからんと

●故世古氏の遺骨 故世古京城控訴院檢事長の遺骨は遺族携帶來る二十六日午前九時南大門發列車にて鄉里三重縣松坂町へ向かつて出發せらるゝ筈

●市川大佐の歸任 出張中の市川大佐は二十三日午後釜山より歸龍したり

●澤田書記官出發 澤田元地方局長は二十五日出發新任地鹿兒島に向ふ筈

●下田課長の入京 下田船舶課長は二十四日午前九時釜山より入京したり

●荒井長官の東上期 總督府特別會計豫算案を携帶して東上すべき度支部長官荒井賢太郎氏は來月五日頃出發の豫定なりと云ふ

●倉富司法長官出發 別報司法官會議に列席の爲め上京すべき司法部長官倉富勇三郎氏は二十五日午前九時南大門發列車にて東上の筈

●國分人事局長出發 國分人事局長は朝鮮貴族一行の斡旋を爲すべく且つ目下宮內省に於て審案中の李王家職制に就き其筋の諮問に應ずべく二十四日朝出發東上したり

●韓銀貨幣發行週報

銀行券總發行平均高（自十月十六日至十月廿二日）	一七、六三七、七一四
內正貨準備發行平均高	六、三三九、九六四
保證準備發行平均高	一一、二九七、七五〇
硬貨發行高（十月廿二日現在）	一、二九五、三四五
內 金貨二十圓	一、八五〇、〇〇〇
同 十圓	五〇、〇〇〇
同 五圓	五〇、〇〇〇
銀貨五十錢	一、〇四九、五〇〇
同 二十錢	一、八五七、〇〇〇
同 十錢	一、四八五、五〇〇
白銅貨五錢	五八六、一五〇
青銅貨一錢	三〇六、六五〇
同 五厘	一九、九四五

●取消 拜啓十月廿二日發行貴紙第五百卅九號所載貴社編輯局諸君に宛たる小生名義の書面なるものは一切小生の關知せざる所に有之小生は御掲載の如き書面を認めたる事斷じて無之畢竟何者かの惡戯に出でたるものと存候小生の迷惑一方ならず候に付全文御掲載の上至急御取消相成度此段新聞紙條例に依り申入候也
明治四十三年十月廿二日 京城日報社 吉野太左衛門 印
京城新報社御中

上海市場恐慌成行（上）
（度支部司税局調査）

上海に於ける恐慌の狀態並に其朝鮮貿易に及ぼす影響等に關しては目下當局にて調査中に屬するも今回の恐慌は今夏護謨株投機の爲め上海市場二三銀行の破綻を生じ一時財界を攪亂せしめ爾來市場の牛耳を採れる外國銀行か支那銀行に對する融通を手控ふるに至りしに依り官金の回收に遇ふて再び金融界の動亂を生ぜしものなるや疑を容れず故に左に昨年七月に於ける銀行破綻の狀況に關し在上海當局貿易調査囑托員をして取調しめたる要項を掲げて參考に資せんとす

▲原因 南洋に於ける護謨栽培事業は漸く世人の注意を惹起し新會社の創立せらるゝもの相踵き株券價格の騰貴日に著しきに依り上海の商人は先を爭ふて護謨株投機に熱中し之が爲め市場の正貨は漸次流出し現金の拂底を告げ來り投機に關係せし錢莊（支那銀行）の濫發せし手形は期日に至るも決濟を見ず一方に於て現金の拂底は一般の取付を喚起し錢莊の資金涸渇して遂に支拂停止の止むなきに至れり

▲破産銀行 同地の豪商陳逸卿は前陳護謨株暴落の影響を受け數百萬兩の欠損を來し爲めに同氏の經營せる正元錢莊先づ七月二十日を以て支拂を停止し次いで同氏の關係せる兆康、謙餘の二錢莊も亦支拂停止の止むなきに至れり此三莊の支拂停止は市場攪亂の導火線をなし元豊、餘大、晉大、森源、會大、協豐、鼎餘の各錢莊相次で破産し其他警戒を要するもの十數を算するに至れり而して是等諸錢莊の外國銀行に有する負債額は百三十九万餘兩にして之が爲め從來錢莊の地位に立てる外國銀行は直に貸付折票の回收を開始せんとせり此折票貸付なるものは上海金融を維持する唯一の融通法なるを以て之が回收は實に同地清商に對する一大打擊な



死刑の不服上告

[illegible]

被告に有利な證據

[illegible]

天長節奉祝準備

[illegible]

殊勝なる朝鮮人

[illegible]

修學希望の鮮人

[illegible]

[illegible]口裝と計りにて所在は更に判明せず殊に本人は五圓許りの所持金あるのみにて僅に日本語を解し尚內地にて日本語を學びたしと言ひゐたるが取敢ず山口ならんと推察して警官より小郡迄の乘車券を買求めやり同日午前九時半出發せしめたり然るに同人の尋ぬる安永辰は當時所要ありて下關市壇之浦藤田福松方へ止宿中の事判明し其旨小郡驛に通牒したれば直に引返して其の目的を遂げたる譯なりと

大擧北漢山登遊

▽大久保大將も同行す

軍司令部師團憲兵隊警務總監部員は既報の如く二十三日大擧して北漢山に壯遊を試みたり大久保軍司令官も其一行に加はり明石少將も遲れ馳せに馬を走らし其他各兵科各課長等約百餘名山上に於て準備の晝食を了へ長嘯を恣まにして午後六時頃歸宅せりと

●長谷川町の刃物騷

大平町一丁目二十九番戶森本米藏(二〇)が二十三日午後七時頃長谷川町一丁目自轉車修繕所富田新十方前にて富田が誤て森本の足を踏み互に喧嘩を初めしに福田喜一なる者通り掛り仲裁せんとせしに森本は貴樣が干渉するの必要なしと福田の面部を毆打したるより格鬪となりしに富田方の店員數名にて森本を袋叩きにせしに森本は自宅に馳せ歸り再び刺身庖丁を携へ押し掛けしを訴へに依り警官出張取り押へしが以上の始末判明せしより本署に引致說諭放還せり

●何が可笑しいか

北部樓閣洞百十九統二戶光化門郵便局配達人申學尋(二七)西部休民洞十一統一戶李學春(二六)同洞金仁玉(二六)の三人は二十三日午前十一時頃光化門郵便局前飯屋洪義文方に於て十錢の飯を食ひ所持金五錢五厘にて殘り四錢五厘の不足は借りることにし立ち去らんとするを南大門外倉洞二六二九統五戶金萬汝に嘲けられたるを憤慨して金萬汝を袋叩きにし負傷せしめ傷害犯として北部署に引致され檢事局に送らる

●飛降り男の負傷

龍山鐵道官舍三十七號の一平岡久三(一五)は二十二日午後三時半頃京城より龍山新市街に向け疾走せる電車七十二號が龍山本町一丁目百五十二番戶前に掛りたる時飛降りしたるに誤つて轉倒し面部脚部等に負傷し倒れ居るを巡回中の本名憲兵上等兵が認め直に同仁病院へ收容せり

●自轉車競爭盛會

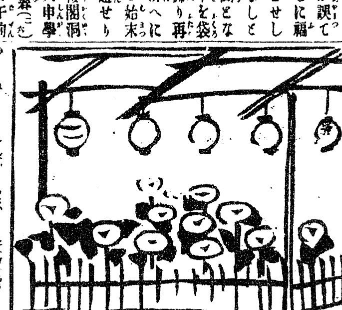
素人自轉車競爭會は豫定の如く二十三日龍山藤勝組右側の常設トラックに於て午前九時開催されたり最後に四十週撰手競爭に第一着を占めしは警務總監部の高島にして優勝旗を取りなり第二着は總督府の木村にして當日觀覽者はトラックを取り卷き二千餘名の盛會なりき



菊のいろ〳〵(四)

▲菊で飾つた巴城館

巴城館にも菊花壇が出來た、中庭の左の方に三段に造られてあるヅーと腰の邊りは柴垣で結び廻されてある、勿論自分所で作つたのではあるらしいが併しナカ〳〵美事なものだ、**食堂**にも**客室**の床にも主人の**居間**も悉く**菊**で飾られてある宿泊のお客樣方は居ながらにして秋の花王を賞でる事が出來る譯で時節柄云ふ可らざる趣味を増した次第で旅客は滯在中の徒然を慰むに足るべく從つてお客も増したとの事だ**夜**に入れば**洞燈**に**灯**を**入**れる相だから眺めば更らに一層であらう、種類は四十餘、二百餘鉢あるが、取り立て申上げる程の珍種もありませんと仰云る、が一文字、夕空なぞはナカ〳〵立派なものである、



巴城館內の菊花壇

▲特徴ある三大華園

既に大和町三丁目の山下萬樂園のを見た、大和町二丁目の多久島のも見た、本町八丁目の七福華園をも見た、而して孰れもに就いて作り方の目的を聞く

萬樂園では多く根分けで成る可く**花を多く着**けて見た目に立派な樣に作ると云ふ主義で**多久島**も多く根分けで挿芽はホンノ五六種であるが此れは花の數を少くして**大**き〳〵と作ると云ふ行き方だ、

七福華園では千餘鉢を傍の空地一間に列べて居る此方の方からコウ眺めると恰度庭一面に菊花を敷いた如く見へる此所では**幹**を**低**く花を大きくと云ふのである、其の主義の異なる丈け、夫れ丈け花に特徴を見出すことが難くない流石は商賣人だけに何れも**皆立派**に出來て居る、デ其の得意筋も各園各樣で萬樂園のは一鉢で十鉢位な代りをすると云ふて買つて行かれる成程根分けで二十本も出て居るのだから、多久島のは花が大きいのであるから**床の間の飾り**なぞにとて掛ける一輪咲きの大きいのには飄逸洒脱聖潜の趣を見ることが出來る七福華園のは低くて而して花を持たせた所に云ふ可らざる苦心の點を認めることが出來ると云ふで素人筋の嘆賞する所だ相な、で以上の作り方には何れも**皆秘傳**と云ふのがあるが秘傳だからとて話して貰へん強いて聞いても兎に角數年自身で苦しんで見ねば判りませんよとは近頃の御挨拶で痛み入つて引き退る外はないのである(けん生)

●車夫の毛布持逃

西部仁峴五十二統十六戶洪元明事安元明(三二)は四十一年中大和町一丁目長末廣吉方へ車夫として雇はれ中同年十二月毛布一枚を竊取し逃走し居りたるを南部署に逮捕され檢事局に送らる

●仁川雜事

仁川京町二丁目飲食店朝日亭事長濱とまは龍岡町二丁目質商谷岡治郎吉(四三)を密に宿泊せしめたる廉により告發さる▲敷島 昨夜の遊客は三十七名散財金百卅二圓七十四錢

●列車に投石す

廿三日新幕發の列車新幕物開間を進行中投石せるものありて三等車窓硝子一枚破損したり

目ご耳(廿五日分)

▲壽座 雁十郎一座の代り狂言は前「菅原傳授手習鑑寺子屋」切り「壺坂」にして澤市内より山の段までなりと

▲歌舞伎座 正劇「[illegible]茶」全十四場

▲浪花館 若遊三一座の代番組如左 伊勢參宮、和歌三神、白木屋、胴取浮れ節、粗忽長屋、鳥屋坊主、喜劇千葉喧嘩、ヴァイオリン、所作事

▲平民文壇▼

▲水道會社では初めから朝鮮人が給水した家は縱令其の居住人か變つても矢張り其の者の既得權を尊重して支那人に給水せざるべく干渉する相だ水道會社と朝鮮人との爲めには甚だ好い思ひ付きだが一方顧客の權利を無視した話だ▲朝鮮人も日本の臣民だから內地人にした所で何でも支那人よりは鮮人のを買て行りたいのは山々だが多く働かずして多い報酬を獲んことを希ふ鮮人給水夫は何うも卻けたくなる▲鮮人の五荷と淸人の三荷半とは殆んど同量である親類だからとて不廉いものを買つて遣れば親類の方は立ち行くか知れぬが買ふ方は堪らぬ▲水道會社は給水量を少うせんが爲めに一派鮮人の狡猾心を利用し而して營を保護に藉りて其の勤勉心をイヤが上にも消磨せしめんと企てゝ居るのだ▲試に鮮人鐘の格好を見玉へなど風呂屋で話して居た人があつた(風岡子)▲學費さへ澤山遣れば子息は勉强するものだと思ふ連中は結構なことだと思ふだらう(小僧)▲京城に公債株劵の現物賣買業者が出來た樣だが今一歩進んで大阪か東京の取引所の定期の取次ぎをしたら相當の注文があるでしよう(無資本者)▲漢學教授せらるゝ方御存じの方は本欄迄(習度生)▲京日紙に一進會は二十六七年頃云々とあつたが二十六七年頃には一進會はなかつた筈に記臆する(京城ゥ生)▲五十男の愧さらしと題して明治町○丁目○○○店員竹迫が年にも愧ぢず中の新地開盛樓の芳子を引つ張り出し或る溫突に隱したのを發見され五十男の面を撲られて居た醜狀は見られたものでなかつた(通行人)▲內務部技手佐藤正規君は測量の心得がない云々の長い〳〵投書があつたが此の人程方々から何んだ彼だと云はれる人も少ない者だ(係)

値下げ 一ヶ月分 金二十錢 **京城新報**

今日の運勢

十月廿五日舊九月廿二日 一白赤口癸亥除△一白●盜害橫領の難を防ぎ家畜見女の身上に注意すべし新事手控への事△二黑●單獨短促の事は好し復讎聯衡の事●不成就婚談貸借に忌む△三碧●示談中裁分離の件は克く進行す散財破財を戒しむ△四綠●婚談聯合組台に忌む其外進んで吉△五黃●新事見合せの事紛爭盜害を戒しむ△六白●利益若くは援助を得るの日なり起業開店旅行尤も吉△七赤●敗利あり子孫の事累あり療病衞生に留意すべし△八白●齟齬多し新事旅行見合せの事盜害遺失注意△九紫●縫れ易き日なり中裁示談中介談判相談見合せの事農林業に吉(本町三ニ館判斷)

●天氣豫報(自廿四日午後六時至廿五日午後六時)

北西風晴

▲仁川米豆取引所▼

▲前場(廿四日) 十一月二節八圓六十[illegible]錢 [illegible]圓六十八錢七十錢六十九錢八錢九錢七十錢六十九錢六錢八錢七錢▲二節六十七錢八錢七錢六錢五錢四錢六錢七錢六錢五錢六錢▲三節六十四錢三錢二錢一錢二錢三錢四錢五錢六錢五錢▲出來高六千六百五十石 ▲後場(同上) [illegible]錢六錢八錢七十錢一錢六十九錢▲[illegible]節七十錢一錢二錢三錢四錢三錢二錢七十錢一錢▲三節七十二錢三錢二錢一錢 三錢一錢三錢二錢三錢▲出來高五千七百五十石

▲大阪期米電報▼

▲前場(廿四日) 十月寄十四圓五十五錢止五十錢▲十一月寄八十七錢止六十七錢▲十二月寄九十一錢止九十四 ▲後場(同上) 十月寄十四圓五十六錢止六十五錢▲十一月寄七十八錢止八十三錢▲十二月寄七十三錢止九十四

總督と行政報告

始め寺內總督が歸東するに際し朝鮮政治の施行上不便多かる可きにより全て[illegible]電文にて聽取することゝなり居り[illegible]要事件に限り精細なる說明を附して報告する旨申越せしといふ

●鎭海灣軍港地近況

鎭海灣軍港となるべき熊川の近況に就ては[illegible]